

## 罪の法則、恵みの法則

(ローマ5・12～21)

## 一、キリストを知り、罪を知る

教会という、主イエス・キリストを信じる群であり、神によって集められた者たちによって語られることばに、「罪」があります。教会が語る「罪」は、聖書が語っている「罪」のこととして、創造主なる神との関係において見いだされることばです。したがって、神が分からなければ、「罪」も分かりません。「罪」は、人が神に触れたときに分かれます。これを知る適当なテキストは、ルカの福音書5章かと思います。シモン・ペテロは、主イエスの神性(神の性質)に触れて、「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから」と語りました。人間が罪を知るのは、神の聖さに出会ったときです。

ですが、神の聖さとは言いましても、それはイエス・キリストを通してでなければ分からないのも事実です。熱烈なユダヤ教徒であったサウロ(後のパウロ)は、キリストの出会い前は、「律法による義については非難されるころがない者でした」と自負していました(ピリピ3・6)。しかしキリストに出会ったことにより、光に照らされ、罪が分かり、「私は罪人のかしらです」と語っています(1テモナー・15)。

主イエス・キリストに出会った人の特徴は何でしょうか。もちろん、様々な言えると思いますが、一つはっきりしているのは、己の罪を知ることです。「私」という、生まれながらの人間が神の前に全く汚れているという認識です。

## 二、罪はいつ、どこから?

罪はいつ、どこからやって来たのでしょうか。罪は、神との関係においてもたらされたものです。そう語るのが、今回のテキストです。5章12節をご覧ください。今こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――とあります。一人の人によって罪が世界に入ったとは、どういうことでしょうか。これは創世記3章に書かれている、神によって創造された最初の人アダムのことです。神である主はアダムに、神が造られた楽園の管理を任せました。神である主は、アダムに語られました。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べよ。しかし、善悪の知識の木からは食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ」と。神である主は、一つだけ戒めを語られたわけですが、アダムが、自らの意思で歩む者とされたからです。アダムは、自分の意思で、あたかも神のようにすべてを決裁する

道を選びました。そこに罪が入って来た。パウロは語るわけです。そしてこれが、キリスト教会の重要な教理の一部となりました。

すべての人は罪人として生まれてまゐります。どんな子供でも、罪を持っていて。すなわち、感じる、思う、こと、行うことにおいて、聖なる神に背いていることが明らかになってまいります。なぜでしょうか。生まれた時から罪があるからです。否、母親が胎内で新しいのちを身こもったときから、小さいのちには罪があるので。古代の教会は、罪は遺伝によってアダムから子孫に引き継がれたと考えました。ですが今日、遺伝によって罪が引き継がれたと考える方はほとんどいません。むしろアダムは人類の代表であり、私たちの一人ひとりもアダムにおいて罪を犯したと受け止めます。いずれにしても、キリスト教会の教理によれば、罪はアダムにおいて世界に、すなわち人の世界に入ったのです。また、罪によって死が入りました。

## 三、罪の法則、恵みの法則

13節、14節をご覧ください。実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さな

かった人々さえも、支配しました。アダムは来たるべき方のひな型です。とあります。パウロによれば、律法の役割は、キリストが来られるときまで、違反を示すためのものでした(ガラテヤ3・19)。すなわち、律法によって罪が罪として認められるのです。では、律法が与えられる前は、すなわちモーセより前は、どうやって罪が明らかになったのかと言えば、「死による支配であった」と語られているわけです。すなわち死は、すべての人が罪を犯したことのしるしであるという論法です。これが、罪の法則です。

しかし恵みの場合は異なります。17節です。へもし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあつて支配するようになるのです。と。「恵みと義の賜物とをあふれるばかり受けている人たちは、自分の内側から湧き上がる思いによって、キリストのみこころを行うようになります。なぜなら主イエス・キリストを信じますと、新しい法則の中に置かれるからです。人を赦したくても赦せない力に縛られていた人が、赦すようになり、復讐をしたくて仕方がなかった人が、復讐する力が萎えてしまうようになります。